

慶進高生が先生役

神原中で「租税」の出前授業

神原中(岡田浩典校長)で15日、3年生を対象に、慶進高(待水清信校長)の2年生5人による租税



グループワークで発表を促す慶進高の生徒(神原中で)

教室が行われた。60人が税の役割や必要性について、講義やグループワークを通して理解を深めた。高校生による税の授業は、オンライン以外では県内で初めてという。宇部間税会(西丸隆会長)が宇部地区租税教育推進協議会(野口政吾会

長)と共に、小・中学生を対象に、税の意義や役割を正しく理解してもらうため、租税教室(出前授業)を行ってきた。今回の授業は年齢も近く共感しやすい高校生に講師をと、慶進高に協力を依頼した。

講師役に手を挙げた生徒は、宇部税務署の署員から指導を受けながら自ら学んで、クイズやグループワークを交えた50分間の授業にまとめ、笑い声も聞かれる楽しい授業が実現した。

授業を受け、正司萌瑛さんは「税金の使われ方や公平性について学べた。グループワークにも気軽に入ってきてくれた。分かりやすい言葉で、頭に内容が入りやすかつ

た」と話した。

講師役を務めた河野ひよりさんと倉光菜々美さんは、税務署で学ぶうちに、税を身近に感じるようになった。「中学生に理解してもらうため、伝え方や間にも気を配った。疑問に思ったこと、調べ

て納得できたことを中心に、自分たちの言葉で伝えることができた」と手応えを感じており、「税金は誰か一人が負担するのではなく、公平に支払い社会に役立てるもの」と伝えた」と、今後も活動する意欲を示した。

慶進高の待水校長は「生徒たちは中学生に教えるため、積極的に学んでいた。今後も継続し、

出身中学に出向き、後輩に知識を伝えてもらうのが理想」と話した。